

授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 助教 小川 佐和子					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	ロシア・ソヴィエト映画史										
【授業の概要・目的】											
<p>19世紀末に誕生した映画は、フランスの撮影技師をつうじてロシアに伝来しました。ロシア・ソ連映画と聞くと、ロシア・アヴァンギャルド期の映画や、「雪どけ」以降の作家主義のもとに捉えられた特定の監督の作品、またジャンルとしては文芸映画がよく知られています。しかし、従来の映画史に埋もれていた帝政期のロシア映画や、スターリン体制下の娯楽映画など、ほかにも多彩な作品がロシア・ソ連において発展していきました。この授業では大きく四つの時期に分けて、ロシア・ソ連における映画史と映画理論を概観していききたいと思います。</p>											
【到達目標】											
<p>1) ロシア・ソヴィエトにおける20世紀の映像文化に関する知識を深める。 2) 映像テキスト分析の方法論や映画史の記述についての基礎を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第一回：はじめに（映画史の方法論、映像テキスト分析、ロシア・ソ連の映画資料のアクセス方法について）</p> <p>第二回から第五回：帝政期から革命期のロシア映画（ロシアにおける映画伝来、ロシア初期映画の作家論：バウエル、プロタザーノフ、革命前後の映画界、亡命ロシア映画人のフランス前衛映画）</p> <p>第六回から第八回：映画におけるロシア・アヴァンギャルドの理論と実践（ソヴィエト・モンタージュ映画理論：レフ・クレシヨフ、ジガ・ヴェルトフ、フセヴォロド・プドフキン、セルゲイ・エイゼンシテイン）</p> <p>第九回から第一一回：社会主義リアリズムと映画（トーキー映画の導入とその理論、ミュージカル映画の娯楽性とプロパガンダ性、アレクサンドロフ、ロンム、バルネットほか）</p> <p>第一二回から第一四回：「雪どけ」以降のソヴィエト映画（ソヴィエト・ヌーヴェルヴァーグ、タルコフスキー、イオセリアーニ、ゲルマンほか）</p> <p>第一五回：日本におけるロシア・ソ連映画受容（モンタージュ映画理論と日本の映画理論、戦後の上映促進活動）</p> <p>授業の進度が予定とずれる可能性があります。 必要に応じて参考上映の機会を設けることがあります。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。</p>											
----- スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点及び達成度】**

平常点50%、期末レポート50%で評価します。

**【教科書】**

適宜プリントを配付します。

**【参考書等】**

(参考書)

『世界の映画作家30 ソヴェート映画史』(キネマ旬報社)

授業中に適宜指示します。

**【授業外学習(予習・復習)等】**

授業中に紹介する映画を、できるだけ(理想的には映画館で)見るようにしてください。

**(その他(オフィスアワー等))**

ロシア語の知識は必要としません。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。